

足元の遺産 今に生かした

みつめる伝える 街角の戦跡

千葉・館山

つづいむ。

「今から見るのは、そんな戦争の跡なんだよ」

房総半島の先端、千葉県館山市。7月31日、公民館主催で、小学生の親子を対象に戦跡講座が開かれた。

「イチョーがいるアメリカと、日本が戦争したって知ってる？」
ナイキの帽子をかぶった子も、デジカメを片手に持った子も、「えっ」と言っ

海水浴客の歓声が聞こえる岩場に、特攻用ボート

「震洋」の基地の跡。民家のすぐ先には、空襲から軍用機を守る壕の跡……。

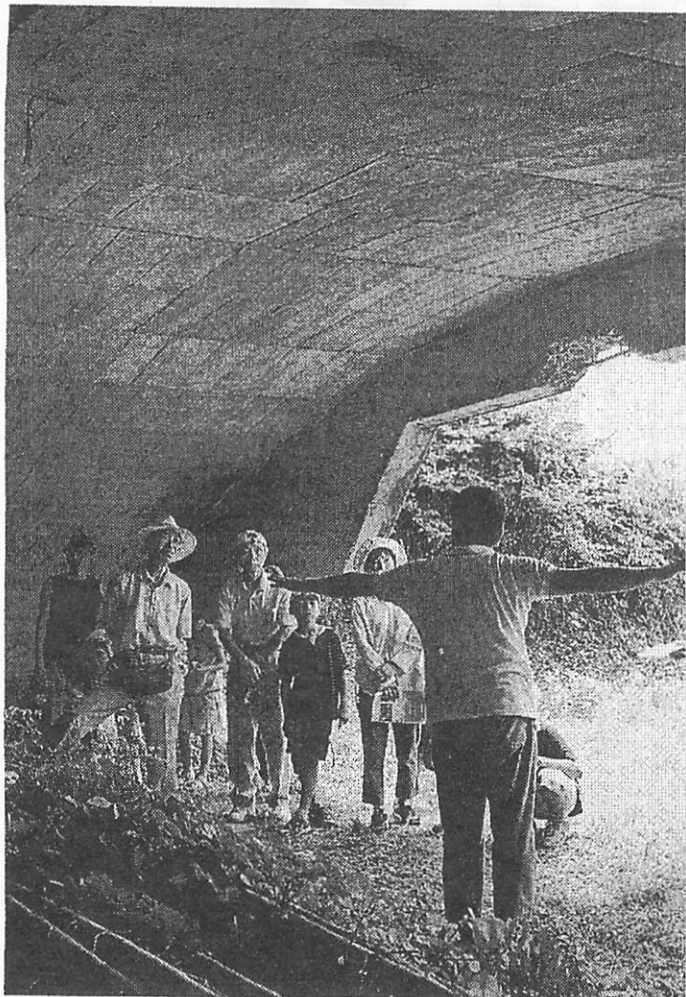
「なんでもないところにいきなりあって、びっくりました」。参加した小学5年の鈴木優太君(10)は驚く。

館山市は今、「戦跡のまち」として注目される。都心から遠くバブル期の開発

から逃れたのが幸いし、保存状態のいい戦跡が約50カ所。その一つ、「赤山地下壕跡」の一部が4月に一般

公開されて以来、6千人が訪れ、修学旅行や平和学習の申し込みも相次ぐ。「でも、3年前は『負の

「平和学習」で街づくり



【FOTO】 軍都館山 東京湾の入り口にある館山に

は、太平洋戦争中、首都東京の防衛のため、館山海軍航空隊など多くの軍事関連施設が置かれた。海軍の教育機関や、本土決戦に備えた特攻基地

遺産」だったんです」

市の観光アドバイザー、浅井信さん(61)は振り返る。01年、旅行会社社員か

ら、市観光協会が募集した観光プロデューサーに転身。定置網漁や農業体験など50の観光メニューを開発

した。今春から市の委託で観光宣伝をしている。市内の戦跡には、赴任直

跡、防空壕として使われた全長1・6キロの赤山地下壕跡などの戦跡が集積している。市内にある女性の長期保護施設「かにた婦人の村」には、従軍慰安婦だった入所者の願いから、慰安婦の鎮魂碑が建てられている。

後から目をつけていた。地元には10年来、戦跡調査をしてきた高校教師、愛沢伸

雄さん(52)らのグループがある。「これこそ館山の資源」と思ったが、周囲は「戦争を取りあげるのは面倒そう」と、消極的だった。

ハイキングツアーのコースに地下壕跡を組み込み、愛沢さんらにガイドを頼ん

だところ、参加者から「印象深かったのは地下壕跡」という感想が多かった。風向きが変わった。02年、市は「平和学習の拠点」をめざし、戦跡の調査研究委員会をつくった。

「もう、館山には行きましたか」。4月、修学旅行で訪れた長野市の松代大本営予定地跡で、地元ガイドにこう聞かれ、富里市立富里南中学の塚越昭広教諭(38)は、はっとした。沖縄や松代の学習はみっちりしたが、同じ県内の戦跡には疎かった。

7月、生徒4人を連れて館山を訪ねてみた。相川真理子さん(15)は「時代が違ったら、あたしたちも巻き込まれていた。戦争が身近になりました」。

愛沢さんのグループは今春、戦跡ガイドのNPOになった。案内の最後に必ず、「自分の町でも、ぜひ戦跡を探して」と付け加えている。「足元の生き証人から、戦争の時代を生きた人たちの思いを読みとってほしいんです」(藤原泰子)

もっと知りたい

館山市では8月21、22日、「戦争遺跡保存全国シンポジウム」が開かれる。各地の戦跡保存運動の団体などがつくる「戦争遺跡保存全国ネットワーク」(026・228・8415)の主催で、今年で8回目。保存運動の課題や調査方法、次世代への伝え方などを話し合う。同ネットワークが編集した「戦争遺跡から学ぶ」(岩波ジュニア新書)には、比較的簡単に見学できる全国の戦争遺跡一覧も掲載されている。

市教育委員会の職員の案内で、爆撃から軍用機を守る掩体壕の跡を見学する

千葉県館山市で、戸村登撮影

＝おわり